

## &lt;全体分析&gt;

試験時間 90分

## 解答形式

計算, 記述, 論述, 選択

分量・難易 (前年比較) 分量 (減少・変化なし・増加) 難易 (易化・変化なし・難化)

分量・難易ともに適切であった。

## 出題の特徴

論述問題に字数制限があった。

計算の途中過程を書かせる問題がなかった。

## その他トピックス

化学平衡に関する内容が軽くなった。

問題IVで核酸の構造に関する細かな知識を要求される問題が出題された。

## &lt;大問分析&gt;

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	選択 記述 計算 論述	無機 電気分解	化学	塩化カリウム水溶液, 硫酸酸性の硫酸亜鉛水溶液, 硝酸銀水溶液の, 直列電解槽3槽の電気分解に関する内容である。	やや易
II	計算 選択	(a) 蒸発平衡 (b) 気体の溶解度	化学	(a) 飽和蒸気圧に関する内容である。 (b) 気体の溶解平衡に関する内容である。	標準
III	記述 選択 論述	(a) 芳香族化合物 (b) 脂肪族化合物	化学	(a) 芳香族化合物の構造決定と, 溶媒抽出に関する内容である。 (b) ヒドロキシ酸エステルの構造決定と, 平衡移動に関する内容である。	標準
IV	記述 選択 論述	糖, 核酸	化学	多糖類に関する内容と, 核酸を構成する糖, および塩基に関する細かな知識が問われている。	やや易

※難易度は5段階「難・やや難・標準・やや易・易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## &lt;学習対策&gt;

1. 理論・無機・有機とまんべんなく学習しておくこと。
2. 化学平衡に関する学習は深めておくこと。
3. 論述問題の対策には、平素から書く練習をしておくこと。
4. 実験に対する探究的な姿勢も養っておくこと。
5. 問題演習を十分に行っておくこと。